

此書は、いさの人比、負難困窮と救い、家と富し、身成、
 脩し、父母を慕ふの心を安んじ、家内和らぎ、子孫長久のきを
 海々の淵と、深安く、おろち、おろち、と、人さ、少せり

かひりうるは傳受

二冊
 繪入

書林弘所

定榮堂
 文徴堂
 群玉堂



かひりうるは傳受

此草紙、いさの人乃、負難困窮と救い、家と
 富し、父母を慕ふの心を安んじ、
 家内和らぎ、子孫長久のきを、海々の淵と、
 深安く、おろち、おろち、と、人さ、少せり





かひもろくろ此傳交上ノ巻

破産の者一曰小平伏一先生は此に
 安樂くあるに傳交しされ。いざり有難なる
 又今より困運世の御傳交。其に銀とまろく此秘
 事と傳をまされ。いざり。は。授て有難く此眞加
 之を伝にそなり。此に沙汰の上り次。
 ○此の曰安楽りある傳交し。其に書して出世
 するや銀もろく事。此をまきし。上り次。

好むにやうに思ひもど生み美しき人乃
嫌ふものあり。今日の事人をも少く思ひ
のり未明く仲山が群集どや。よく世ふ
遊するもをいして。いやれ事にもおひき
心出や。○人教の中をすみ出。好織にては
好むか。元々天意と事ふすや。はは私を
日暮村の彦屋に。さうして。先生
様。今日の事。傳受。在るでも。何より
か。う。家。に。一。波。入。用。の。り。お。話。が。う。ら。び。ま。し。て

夜のあらふ。私。好む。して。美しき。ふ。は。傳。受。人。が
き。ら。い。や。う。の。し。お。さ。を。ま。し。す。う。の。ぞ。う。と。話。で
お。さ。う。ま。ん。他。人。の。ぞ。う。ゆ。せ。ぬ。が。私。が。村。の。若
者。の。り。お。話。の。り。お。話。を。話。して。銀。り。け。る
る。し。お。世。す。う。の。り。飯。り。も。好。む。で。酒。や。女。も。好
む。に。お。い。て。ま。ま。ら。ん。座。一。人。を。ま。き。ひ。い。の。り。ま。せ。ぬ。
○若。の。田。成。が。ま。ま。ぬ。れ。の。り。一。人。を。好。む。い。え。い
を。れ。や。う。又。雨。の。好。む。か。ぬ。あ。の。り。好。む。お。の
う。の。り。お。話。を。話。して。銀。り。け。る。も。話。の。好。む。

好むにやうに思ひもど生み美しき人乃

事の母りがゆきある物なまじき。きくひびりれせの
中どやてふ。病者遊後人の法に紅毛國へ入り
あが世紅毛小カ子モウカルといふ名薬と賣家が
又き隣家にカ子ナフ丸といふ名薬あり。けカ子モウカル
といふ薬の春に次第に富貴の身と成る良薬也
くしむ者の人は是と志するひな。ゆき小は薬と成に
すいびで速くありあまう人むして稀たり又き隣家の
カ子ナフ丸いけ薬を人用ひまは分賣時難候といふ
り忽ち毒薬として。諸人にくきくらといふと

此薬日々に無品一買に多く人門小市と成る。病は
を安てあまう不害なるふれりひけカ子モウカルと賣
家はむりてまに同て曰。此家此は薬いせれ人治良薬
なりと稱すこと。速く人まこと。又此隣家のカ子ナフ丸い
世人の毒薬也といふまじくつた。速く人日々に也
病が不害たり不たり。委細法アせせり人○まきて曰
此家の薬と良薬とありて人用ひ難は此薬と大毒薬
と知てたが人好んで用ひる事。是より一記事に
あはる後ふも。良薬は小いづく。毒薬はふあまうといふ

るる。若し今も世の人皆あるふして、始終のたよとよと
よとよ。一時の己ごをたるとのこたす。すも色。我々の茶の
用ゆる。順ひに。沙。弟に。富。事。に。あり。若し。これ。に。か子
モウカ。事。百。茶。百。中。なる。若し。人。ふ。求。ふ。ふ。ま。さ。し。何。も
何。あ。り。て。果。若。く。て。吞。け。く。い。し。毒。忌。養。生。は。六。茶。よ
誰。も。守。り。て。用。ぬ。也。又。月。ひ。ぬ。と。之。記。を。く。け。此。茶。味。何。き
と。皆。常。人。の。齒。ぐ。に。た。ぬ。六。茶。味。の。も。也。一。子。若。の
秘。方。を。と。し。あ。り。き。ゆ。く。若。よ。か。り。り。一。カ。子。モウカ。此
茶。を。い。儉。約。堪。忍。家。業。出。情。正。直。知。足。實。義。この

六味とたり。柔和謙遜。氣量。發明。し。口。味。の。加。味。一。一。
慈悲。一。片。入。て。煮。や。す。常。此。通。り。の。人。は。人。を。道。と。守。り。
よく。吞。え。で。後。治。め。常。小。用。ひ。て。か。た。を。と。り。て。い。万。病。を
治。も。妙。業。と。す。い。ろ。ろ。火。初。浪。虚。と。も。ぞん。か。積。業。倍。合
でも。い。ろ。ろ。疝。積。大。倍。でも。ぞん。か。氣。亦。業。倍。でも。い。ろ。ろ
疝。症。を。自。相。で。も。全。快。す。ろ。ろ。速。ち。ろ。ろ。其。れ。ら。ろ。ろ。せ。れ
人。常。我。を。知。あ。り。し。す。れ。ば。良。業。を。用。ひ。ず。て。罟。獲
陷阱。の中。に。令。そ。誘。ふ。れ。毒。業。を。う。け。り。り。て。後。亡。ぐ。る
い。ろ。ろ。業。む。む。い。ろ。ろ。後。よ。か。り。た。事。に。あ。ら。ば。や。ぞ。若。は。い。そ。ふ

此の茶の味は... 此の茶の味は... 此の茶の味は...

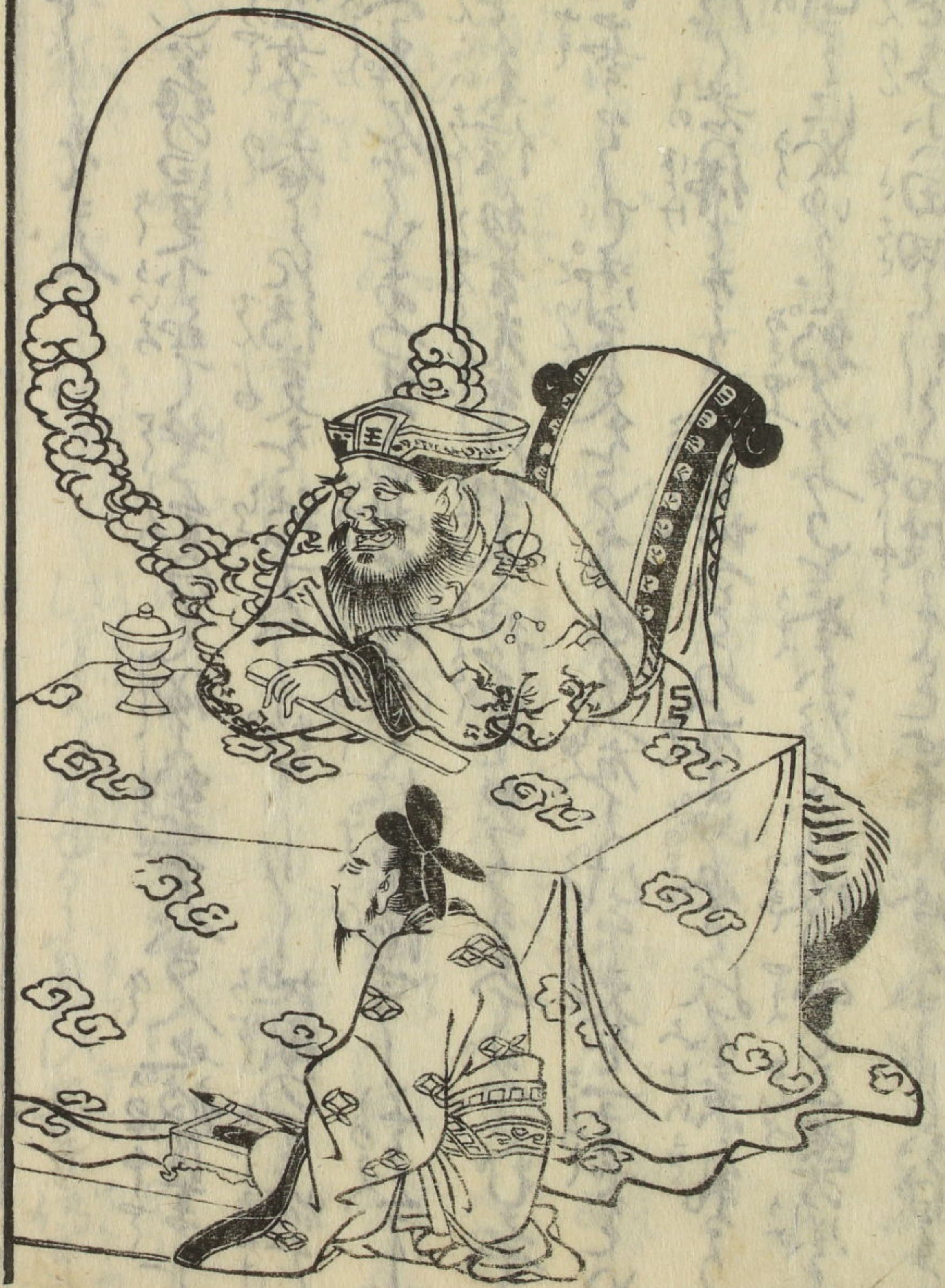
ついでに漢家の賣茶カ子ナツル此業方ハ美食色欲遊
藝遊所奢潜上名聞我慢諸勝負諸相場殺生好誼
嗜口論不忠不孝家内不和合諫言嫌氣隨身勝手不
實情各盡無慈悲奸佞邪曲不敬殘虐虛言諂諛此
世に味と考し酒を以て一牛を以て一序入るを以て
不孝は生殺業は淫汚情弱不異爾此六味を加味して下
やん常々好癖は家業不替を一といはる。用やうい
一味を以て下をも以て上をも以て味を味しおろくおぼ
りもれり。此を業ふやん。是ゆる人小もすめてきん

のまゝ。このふらりるべ業はわらうらにさうしと業毎
節まのくにさあみける。大症は死難治の症とけり。所体
あてぐりごとく。分教滅怖する時。業の毒に害せられ。
名ふらぶぬか子ナツルの毒切を切つて。おけましくやめ
ゆ。此のひま。強し。下も。さ。れ。お。ん。け。り。する。人。を
ま。ま。に。て。唯。あ。分。れ。果。う。ま。く。心。を。ま。そ。お。り。る。ま。
多。く。の。味。を。喰。ひ。け。り。古。人。の。言。ひ。を。遊。女。を
別。利。の。如。く。さ。る。ま。の。き。づ。を。か。む。ま。ず。し。い。若。者。に。
い。て。あ。れ。を。南。て。親。く。さ。る。若。い。命。や。家。を。ま。ま。し。

此の業は...

かもして、その利根おろしは、いは、ふ、さ、ら、ん、で、こ、か、に、抱、ふ
ゆき、は、な、が、又、聖、賢、の、芝、蘭、は、家、を、入、る、の、が、け、き、力、に、成、る、
誰、も、知、ら、ず、も、け、さ、ら、つ、て、よ、る、流、を、是、と、し、氣、も、知、ら、ず、人、
世、の、中、の、貧、乏、を、困、窮、を、中、身、多、く、し、て、富、貴、を、毎、と、好、む、
若、い、あ、り、す、れ、く、ま、と、き、は、流、家、は、毒、茶、カ、子、ナ、ラ、ル、ハ、
日、に、し、て、笑、人、多、く、お、方、は、良、業、カ、子、モ、ウ、カ、ル、ハ、口、に、し、り、
お、ろ、う、人、賣、れ、に、ば、な、れ、世、に、け、り、既、に、今、を、時、を、入、る、よ、
士、農、工、商、の、職、を、す、く、世、に、大、切、の、父、母、は、困、を、
け、か、き、を、死、な、す、と、く、遊、遊、ふ、ま、り、是、を、天、下、の、遊、民、と、

隣は、此、カ、子、ナ、ラ、ル、を、好、む、人、も、我、方、は、此、常、に、あ、る、な、ど、
無、差、の、人、な、り、早、く、知、ら、せ、る、べ、し、目、を、む、き、出、し、け、
に、○、お、方、は、終、ら、ぬ、遇、と、悔、法、を、遊、民、を、止、め、早、く、歸、ら、
力、を、懐、き、カ、子、モ、ウ、カ、ル、の、一、味、を、た、母、も、有、益、は、事、と、成、す、
と、も、け、ら、ふ、○、被、ま、ら、る、と、ん、で、回、汝、を、我、方、の、良、業、と、一、股、
天、尊、の、位、を、成、り、て、よ、う、に、せ、ど、者、も、な、ら、ず、に、用、ひ、て、カ、子、モ、ウ、
カ、ル、の、功、徳、を、人、に、も、知、り、て、奉、り、た、り、と、喜、ぶ、事、も、多、し、ら、ふ、
○、お、方、は、終、ら、ぬ、と、拜、して、鹿、小、帆、け、て、向、ふ、う、し、と、事、は、終、ら、る、
此、カ、子、モ、ウ、カ、ル、を、吞、む、氣、を、れ、ど、も、心、を、あ、け、て、此、業、



する物なり又此の如くお一人にせしむる所なき友を
おしよれば我を知識小いつとなく。か子す丸の毒業
とのまきけく。おれを害するも此の如く人をとて殺さる
吾人とお心切らば毒人ふきりてさす。此友れ
たすもを清のく。是を良く此毒をたはすまでござる
○先生いれと此きげんなく。大敵ふきりてさす。
○おの白証をしおんで派田氏れ子息派田家母
まはれおれ毒を方生れたく。氣を方智とゆふがう。
我をわくくして人れ法をさす。よ人れとくをさす。

ま友にさうさういふ。今に天漢くみゆれば會い本を
あんで位を所を教へし人ともあんで力をさす。い
いさうや。顔子あまは。大賢たりとも。孔夫子にうたま
いぶんが徳と全人。一の事ありさす。孔明が知るも
関雲長が勇たりとも。照烈帝にゆるて名をか。張良
韓信が英ありとも。漢の言程よさうさす。天正に功を
たす。さうさす。おれ況や。汝が軍に人あり。た
友の助あり。清が。して。三つ世たり。さす。や。困運山を
報さう。さす。秘術あり。人あり。さす。さす。

此の如くお一人にせしむる所なき友を

あはれは傳へし又不仕を流流因窮に於る傳受は。
阿も人をもりありあはれ友に更し。いりこるは訓かきと
始は傳は汝を二給カ子モウカレのうりの事はせえ
かざりしとていりこるは訓かきと。いり初先生今い
どくは境界とせわらるぞ。○江州が白雲洞の先生
いり初は。一也の志くぢりぞ。丁ど世に友目流し西玉
順礼。ますのしまをて。いりこるは訓かきと。いり初先生今い
本勅南一門一家は訓かきと。いり初先生今い
くしと。いり初先生今い。いり初先生今い。いり初先生今い。

あはれは傳へし又不仕を流流因窮に於る傳受は。
阿も人をもりありあはれ友に更し。いりこるは訓かきと
始は傳は汝を二給カ子モウカレのうりの事はせえ
かざりしとていりこるは訓かきと。いり初先生今い
どくは境界とせわらるぞ。○江州が白雲洞の先生
いり初は。一也の志くぢりぞ。丁ど世に友目流し西玉
順礼。ますのしまをて。いりこるは訓かきと。いり初先生今い
本勅南一門一家は訓かきと。いり初先生今い
くしと。いり初先生今い。いり初先生今い。いり初先生今い。

あはれは傳へし又不仕を流流因窮に於る傳受は。
阿も人をもりありあはれ友に更し。いりこるは訓かきと
始は傳は汝を二給カ子モウカレのうりの事はせえ
かざりしとていりこるは訓かきと。いり初先生今い
どくは境界とせわらるぞ。○江州が白雲洞の先生
いり初は。一也の志くぢりぞ。丁ど世に友目流し西玉
順礼。ますのしまをて。いりこるは訓かきと。いり初先生今い
本勅南一門一家は訓かきと。いり初先生今い
くしと。いり初先生今い。いり初先生今い。いり初先生今い。

止むじつ一正の大柱ありげらるまははき剛性しく
蛇も品ふおそく程の勢ひあり余りに力にあらざる
布衣記一故人同ふもなるは今より人男も同程
力をわけてあまんそあまとおげたまやんと主人の
如にあらゆしが常しくかいて服上にはむきそ
むらぐ足えげり先がわぬぬ衣にあらりてあやぶ
る。たにせ七ひけり好ん汝ふかきげ居る者の人け
蛙の道理しくこが布より歌があまが忽びうかつらむ
足る所より多くいあまを亡すけり汝も只歌のみふ

う人に目つた換れけりけんれむらぐ足げりかぬん食
とむら目あかり人今危きとてげよ一箇いせん
そのふあれ換が跡念念念とけがれをすや又ひ
後をそそむらにそ方一令合したやそ足る今れあ
うらがのわどく子念をんり地換と換せまひそ今
改て令合をちうが法う下地の換換て足切を令合地
とちうめが徳を海がす事しちむら。カ子ナフチルのほ
業味し知らるる世俗の言にも後のちり今やんえ
ぬ強らり足と強しり妙く海も足るぬ危地大跡とけを

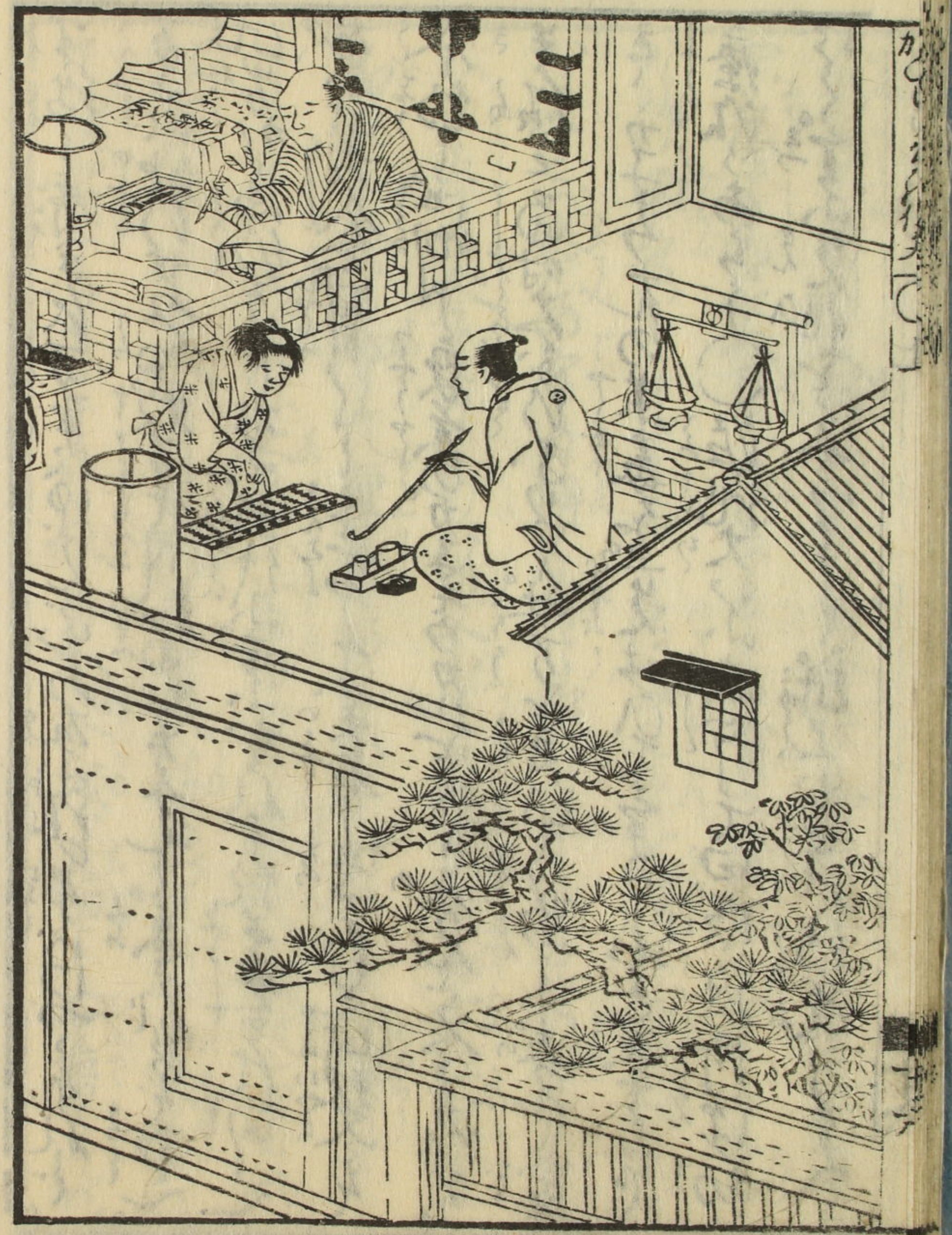
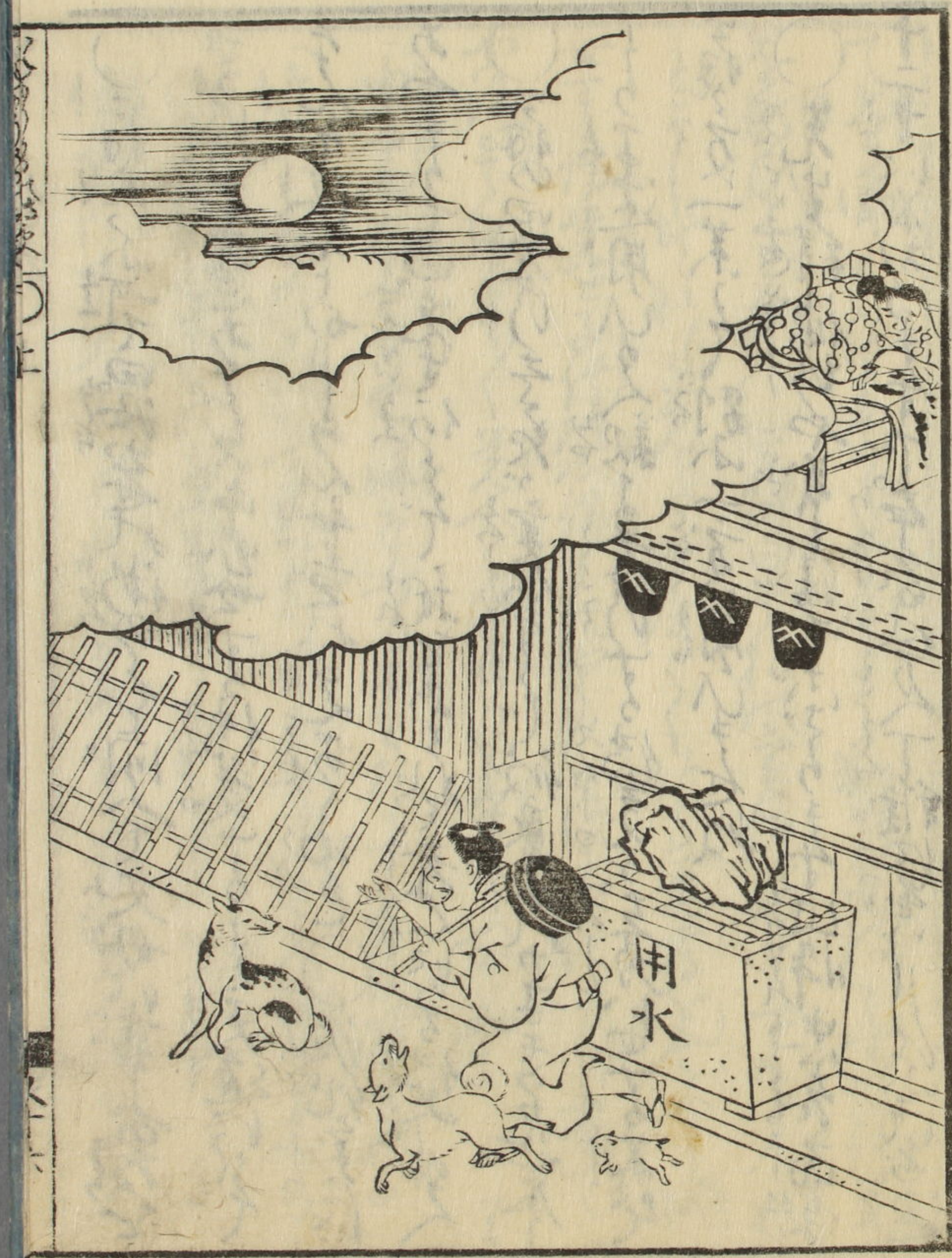
一

一

我々も百目を待たせし思ふや
や危きやとせぬか換とすし
可恨激たつしやとすや
かぬも。奉の空を待てぬ
は。さ。さ。大令をま。け。たり
ぬ。い。ま。し。る。お。ろ。し。厘。毛。と。り。ま。し。け。に。ま。さ。ん。と。て
ま。う。も。と。老。終。小。大。家。小。女。考。ぞ。う。我。の。う。に。昨。百。目。れ
張。と。た。ま。う。し。い。ふ。お。ま。い。似。て。百。目。れ。張。り。つ。ら。い。で。も。か。い
て。昨。百。目。う。ら。い。ま。ま。り。か。り。と。思。ふ。今。張。が。大。切。と。我。の。う。に。い。は。り。

半歩も背きん万事にゆんがぬ
万のたつせぬが教万世同し
は男から心ゆたり
おしけ老人を百目くし
今物。世。此。の。良。業。の。カ。子。モ。ウ。カ。ル。と。う。く。春。ん。と。人。と。丸。か。
ま。ね。さ。る。面。時。大。か。り。か。り。く。吐。き。さ。め。ひ。て。涙。あ。り。春。ん。て。ま。
ま。さ。カ。子。チ。ラ。丸。の。業。毒。を。一。先。吐。ひ。て。ま。ま。り。わ。さ。し。又。ま。ま。り。で
一。瘡。治。り。あ。ら。う。○。泥。地。大。不。感。乎。て。曰。候。此。津。津。切
ほ。く。言。ふ。せ。ん。世。と。を。ま。ま。り。く。け。上。お。せ。れ。傳。交。し。る。人

ト



○翁大不訂て曰汝を此物のと何人も父母に事あるを
きくはけ不孝あるべし申せ世する傳受するも天道に
なんぞ汝をかりしん言ふはるべしと云く○泥地ま
あやまりて曰先生何ぞぞ我をおそれる考心はる傳受の人
○翁の曰考りそ我が言ふも被服束力子モウルを今
しりて速用いの人親し考りする傳受が支勇世する業にて
翁の方一業として別ふ二方の用ひませぬ

○先生様徳ゆや義を清ておぼりますは傳忠を南
十二支に本かります下本家此方人下程にきりしは伝忠

てとらゆくと何をもくそ尾より勸め世清れ本此傳受
を教ひよます○翁の曰も徳は實行が徳と云へ人相
をよりいかにいかにそ尾よりいかに忠考と云へ人
世する傳受も子傳れん傳よれや此に傳まにりて書て
おほき伝よりくそ今いは傳と守ふがや
東平やなまありせ傳をづらむをたすもその徳をい
はるふその徳いふがたか下女いさふ中するふ
徳まの徳も事ばいふとくより所いふふれか
傍輩に申せしと我より下なる考心あらんや

望まらざるに在り此父母人杖やうてきりてほむる事せがま
親の門に通ふる用なきにやめがらふ事奉ふ
教ふにけり此の事も永代にせむが忠義を教
我にり初め備者侍軍此あらうもつれづれあはれ
食ふにけりする者毎にけりあやまらぬ人の事忠義
食すえよ食をさすけり老ふにけり忠義 親孝行
これぞち礼義配服何れもさすにけりまじり
利づる言ふまじりけり此と経来不律儀をけりま
用ふまじりかき芝居をさすのさす處つておぼやうとてま

正しき事おしすまじり人を侍軍中をかあひけり
忠義をまじりまじりけり此と経来不律儀をけりま
出世をせんと思つてまじりまじりけり此と経来不律儀を
代にけりまじりまじりけり此と経来不律儀をけりま
何れも此の事おしすまじりまじりけり此と経来不律儀を
まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり
用運や出世此の事おしすまじりまじりまじりまじり
正しき事おしすまじりまじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじりまじりまじりまじり

上

此^{この}書を進^{すす}むるに^に得^えし^し合^あふ^ふて^て是^{この}書^の本^{ほん}末^ま迄^{まで}人^{ひと}
 々^々と^と忠^{ちゅう}告^{こく}も^も全^{ぜん}く^くそ^{その}身^みを^を主^{しゅ}身^{しん}出^{しゅ}世^せに^に傳^{でん}交^{じょう}し^しや
 美^みと^と清^{せい}及^{およ}ぶ^ぶに^にく^くそ^{その}氏^し打^{うち}人^{ひと}の^のま^まき

かひまうらる此傳交上ノ巻終

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

